

2021年度(令和3年度)用

自己点検・自己評価報告書

学校関係者評価委員会

2022年6月7日(火) 会議資料

学校法人 水野学園

専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ大阪

自己点検・自己評価委員会

項目 1	教育理念・目的・育成人材像等	
【現状】	1	<p>学校の理念・目的・育成人材像は定められているか</p> <p>教育理念は、学生ハンドブックに掲載し、年初のオリエンテーションで学生周知が進められている。学園として統一した3つのポリシー（ディプロマ、カリキュラム、アドミッション）を、HPにて公表している。</p>
	2	<p>学校の将来構想を抱いているか</p> <p>定期的実施される「経営会議」において、将来構想および検討が行われている。学校を通じ社会人教育の充実を図っていく必要性が話し合われている。</p>
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 既存の三つのポリシーは徐々に浸透してきた。各校各学科のカリキュラムの方針などに直接反映されるようになってきた。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 学園が新しい分野に新学校を設し、学園として統一した3つのポリシーという考え方に整合性をとることが難しくなってきた。上記のような状況を考え、今後は学園に運営ポリシーをおき、各校ごとに3つのポリシーを立てることが必要であるとする。</p>	

項目 2	学校運営		
【現状】	3	教育理念・目的等に沿った運営方針を定めているか	学校の理念、目的、育成人材像をふまえ、「経営会議」にて運営方針を定めている。設定された運営方針は、各部署長を通じ、全教職員に周知されている。
	4	中長期的な事業計画を定めているか	学校の事業計画は学校長を中心に定めている。変動する学生数、学費収入、教室使用状況、支出などを鑑み、人事計画・人件費計画は、10年後までを見据えた事業計画を定めている。
	5	運営組織や意思決定機能は明確化されているか、また有効に機能しているか	理事長、学校長、各部門長による「経営会議」を定期的実施し、学園運営全般についての情報の共有ならびに意思決定を都度実施している。今年度も集合しての「教職員会議」は見送ったが、メールや動画配信などで運営方針の周知や情報の共有を行った。
	6	人事・給与に関する規定等は整備されているか	整備されている。人事・給与に関する規定「就業規則」「給与規程」等、自由に閲覧できる環境を整えている。“採用、試用期間、休職等”については「就業規則」に記載され、“昇給、各種手当、賞与等”については「給与規程」にて明確に定め、適切に運用している。
	7	情報システム化等による業務効率化が図られているか	専任の情報システム担当職員を置いている。各部署のデータを共有し、学生サービスおよび業務効率を高めるべく、システムを構築・運営している。教職員の在宅勤務は引き続き推奨しており、通勤による感染防止に取り組んだ。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 上記の通りしっかり実行されていると評価できる。 運営に対しては、新学校の設立など、先行投資で将来的にも安定を維持する学園構想を持っている。 また、教育内容については内部からも見直しを図り、特にコロナ禍で過ごした2年間から新しい時代に対応するプログラムやそれに伴う教員教育を行ってきた。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 今後については、改めて専門学校としてその教育方針やプログラムの内容に合理性があるか検証する必要がある。また、次世代の教員育成においても、大きな教育プロジェクト担う機会を与えて行くことが重要になると考える。</p>		

項目 3	教育活動		
【現状】	8	各コースのカリキュラムは目標が設定されているか、また体系的に編成されているか	各コース、学年での教育到達レベルが設定されており、そこに到達するためのカリキュラムが体系的に編成されている。カリキュラム内容については日々活発に意見が交換されており、2021年度も見直しを行った。各科目について「授業のねらい」「到達目標」「授業の計画展開」「評価方法」などで構成される授業シラバスを作成し、公開している。
	9	教育方法は適正か、また授業評価の実施・評価体制はあるか	教育方法(個人の指導力に対する評価)については「ティーチング・アセスメント」を導入し、実際の授業を見学、改善点を指摘し相互評価を行った。また授業評価に関しては、学生による授業評価アンケートを9月に実施し、学生の評価を教員にフィードバックを行った。
	10	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	外部アドバイザーとの協力により学生育成目標に向けた相談がなされている。
	11	教員組織体制が確立しているか、また教員間の連携・協力体制を構築しているか	学校長以下、教育部長、学科長が教員組織を取りまとめており、組織図を共有して指揮命令系統を明確にしている。カリキュラムの交流、学校行事ごとの分科会などを通じて、教員間の連携・協力体制は整っている。
	12	成績評価や進級・卒業認定の基準は明確になっているか	学則にて明記されており、学生ハンドブックにて周知している。進級・卒業認定は、科目履修状況、出席率、授業態度、成績を総合的に判断し、学校長以下教職員の判定会議にて認定されている。
	13	資格取得の指導体制はあるか	学生および教員自身の資格取得に際する指導体制は整っている。「貴金属装身具技能検定」の取得に向けて、対策ゼミを放課後に実施。希望者48名(3級33名、2級15名)の指導に当たった。また、自転車メカニックコースにおいては、「自転車安全整備士」資格に対して通常授業で指導体制が整っている。また「スポーツバイクメカニック検定」は学内カリキュラムと連動化している。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 昨年に引き続き、コロナ禍により学校全体でイベントなどの自粛を取り決め、残念な1年だった。各種セミナー、学園祭、就職イベント、研修旅行などは一部を除き行うことができなかったが、代わりに通常授業の充実を図り、学外とのオンライン中継などで臨場感のある授業を行った。学生も状況に対しては理解を示しており、引き続き授業の満足度は総じて高かった。</p> <p><課題・今後の改善方策等> ハイブリット授業については、インターネットの不安定さもあり実施は難しかった。今後はハイブリットの可能性を試すとともに、オンライン授業の可能性についてさらに学校をあげて取り組んでいく必要がある。</p>		

項目 4	学修成果		
【現状】	14	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2022年3月31日現在、全学科平均の求職者就職率は100%(昨97.7%)だった。コロナ禍ではあったが、非常に高い結果を残すことができた。
	15	資格取得率の向上が図られているか	ジュエリーコースの「貴金属装身具製作技能検定」の受験結果は、3級合格率81.3%、2級合格率40%だった。大阪府の合格率はそれぞれ62%、35%で平均を上回る結果となった。ウォッチコースの「時計修理技能士検定」については、3級合格率75%、2級合格率61.5%だった。大阪府の合格率はそれぞれ69%、50%で、平均を上回る結果となった。自転車メカニックコースでは、「スポーツバイクメカニック検定(SBM)」のカリキュラム連動化を実現している。2021年度は21名受験、4名が合格しており、合格率は19%(検定全体の合格率は23%)
	16	在校生・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	在校生に対しては外部の各種コンテストや発表会・展示会などに参加することを奨励し、卒業生に関しては、同窓会や教員、教務進路職員との関係を通じ、その活躍の把握に努めることとしている。在校生・卒業生の実績は「入学案内」やホームページなどで常に紹介し、在校生の学習意欲の向上や、卒業生への情報発信、入学検討者等への学校PRに役立っている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 昨年に引き続きコロナ禍における学生の学習成果は、結果的に例年のレベルを維持できたと言える。罹患者による休校などで規定の授業時間数が確保できないこともなく、学生の学習成果は順調であった。就職に関しても求人数が戻り、その伸びも安定してきた。</p> <p><課題・今後の改善方策等> オンライン授業が多くなるに伴い、授業準備もそれに比例して大きくなり、教員の大きな負担になっている。できるだけリソースを共有したり、テクニカルなところで教員の負担を少なく学習成果を上げていくことが重要になると考える。</p>		

項目 5	学生支援		
【現状】	17	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	整備されている。 教員・教務と進路が連動することで、より良い学生指導を行っている。進路指導についてはキャリアガイダンスを卒業前年度11月から実施し、業界知識や業種職種研究、求められる人材像の説明および自己分析などを指導した。企業就職希望者に対しては、3月以降に就職活動のための具体的なノウハウ指導を行うと同時に、専用のWEBサイトにおいて求人の公開を行った。コロナ禍という状況において、オンラインを利用したリクルートイベントを行い、多くの内定者を出すことができた。
	18	中途退学者が継続して学びたい場合の支援体制、または代替えコースが設置されているか	ジュエリーの途中退学者に対しては、キャリアスクール(附帯教育、昼夜、時間登録制)への転校を勧めている。 一部の退学者は、授業単価も割安で、提出期限のない課題を自分のペースで学べるこのコースを選択する場合もある。 ウォッチ・自転車メカニックの各コースには再受講コースが存在しない。 専門課程での再受講を希望した場合、途中退学・除籍者であっても、再入学の資格を認めており、試験等で合格すれば、再入学を認めることにしている。
	19	学生相談に関する体制は整備されているか	整備されている。 従来通りクラス担任と学科担当教務の連携による学生の就学指導は良く機能している。また、学生が学校長に直接意見をメールできる制度の運用などを通し、より細かい学生の相談体制を構築している。
	20	学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか	高等教育修学支援新制度(学費無償化)、日本学生支援機構の公的奨学金、家計の急変・転科による就学年数延長者に対しての 水野学園独自の授業料減免制度などを設置運用している。また、学費の分納、延納などに対しても、学費相談担当者が学生個々の状況に応じて対応している。
	21	学生の健康管理を担う組織体制が整備されているか	学校保健法に基づき、5月に学内において全学生の健康診断を実施している。診断結果が悪かった学生には、健康管理について個別に案内・指導している。また、学内においての学生の急な傷病に対しては、保健室やAED装置の設置をはじめ、救急箱や緊急搬送医院の一覧マニュアルなども完備している。
	22	保護者と適切に連携しているか	在校生、保護者が閲覧できる「学生WEB」を導入し、出席率、単位取得状況、教育内容を確認できるシステムを構築した。また、本年も水野学園全校合同で、学科ごとの授業成果を学生が発表する「プレゼンテーションズ」を開催。保護者にもオンラインで配信した。
	23	卒業生への支援体制はあるか	卒業生は全員水野学園同窓会の終身会員として登録され、転職相談や進学等についての支援を受けることができる。 また、優秀な卒業生に対しては、「同窓会賞」として、独立開業や再進学のための報奨制度も制定されている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 上記の通り、学生支援体制は概ね整備されていると評価している。</p> <p><課題・今後の改善方法等> 学生の健康管理において、メンタル面の相談増に伴ない、対処に困るケースが増加傾向にあり、教職員のみでの対応に限界を感じるようになった。 メンタル面のケアを実施すべく、2022年度からは、臨床心理士資格を有する先生と契約し、希望者にはオンラインでのカウンセリングを行うことにした。</p>		

項目 6	教育環境		
【現状】	24	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	施設・設備の改修／修繕／交換／導入は年度ごとで計画的に整備をしている。各教室ごとの責任者を決め、常に点検している。教室以外の施設として、図書室・学生ホールなどの環境を整えており、年1回の学生アンケートの実施を活用し改善に努めている。学生への伝達事項は、学生アプリを活用することで、確認の有無まで把握でき、よりスムーズに行えるようになった。
	25	学外学習やインターンシップなどの教育体制を整備しているか	本年度もコロナ禍により、限定的な活動に留まらざるを得なかった。 [2021年度実績] ウオッチ=ブライティング・ジャパン株式会社様(スタジオ見学・オンライン)、リシュモン ジャパン株式会社様(カスタマーサービス見学・オンライン) 自転車=株式会社あさひ様(メカニックセミナー)、オキドキライフスタイル様(SBM整備講座)、株式会社和光ケミカル様(洗車セミナー)
	26	防災に対する体制は整備されているか	学生対象／教職員対象の2種類の防災訓練を毎年実施。教職員対象の防災訓練においては、災害発生直後から宿泊するまでを想定した実践的な訓練を行っている。 防災マニュアルの作成・完備や緊急地震速報に対応したシステムの設置、5日分の非常食を完備するなど、防災体制を整えている。 コロナという災害に面し、引き続き 備蓄/追加購入した不織布マスクを教職員に配付することができた。「手指用消毒材」「設備用消毒剤」「手洗い用石鹼液」などの消耗品や、「非接触体温計」「サーモカメラ」に加え、抗原検査の実施により学内の感染拡大防止に努めた。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 昨年から引き続き、東京校との共同授業や教育者によりオンライン授業、また異なるコース間での合同授業などが可能となっている。自粛が余儀なくされ、学外での学習が制限される中、新しい学びの場や機会が増えてきている。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 今後は工具やデジタルツールなど、教育インフラをさらに整備していくことが必要と考える。新しい学びの場が増えたことを前向きに考え、学生により良い教育環境を提供していくことが必要と考える。</p>		

項目 7	学生の募集と受け入れ		
【現状】	27	学生募集活動は、適正に行われているか	募集案内の記載内容については学生が明瞭に理解できるよう十分に配慮して作成している。募集内容は、稟議を経て理事長、学校長の決裁を受けて作成されているものであり、学内でのチェック体制は整備されている。資料請求者、入学志願者の相談内容はデータ管理され、個人情報に留意しつつ、適切な対応ができる体制が整っている。
	28	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	AO入学については全員と面接、推薦入学および一般入学については入学願書・調査書の内容により、どちらも本校で学習することに対する意思の確かさ、粘り強く物事にとり組める姿勢を出願者の選考基準としている。留学生については全員と面接を実施し、日本語能力・学費等支払い能力を総合的に判断する。
	29	学納金は妥当なものとなっているか	本校が提供する教育内容、施設等や他校の状況、社会全体の経済状況等を踏まえ、妥当な金額であると考えている。金額および支払時期については募集要項に明記している。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>コロナ禍ではあったが、例年通り、適正に実施されていると評価している。</p> <p>入学希望者向けイベントは来校型・オンライン型と充実させ、来校者が参加しやすいイベントを毎月開催した。</p> <p>AO入試に関しても、「来校型・オンライン型面接」を選択できるようにし、コロナ禍であっても入学者志願者が満足できる運営方法を確立した。</p>		

項目 8	財務		
【現状】	30	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	高等教育修学支援新制度や学園独自の奨学金制度等により、入学者の確保や休退学などの離脱者を減らすことで安定的な収入を確保し、健全な財務状況を維持している。将来10年程度の見込みについて随時分析している。
	31	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算は、前年度末に翌年の予算案を作成し、理事長・学校長の決済を受けた上で、評議委員会・理事会の承認を受けて決定している。本部各部門の責任者は、承認・決裁を受けた予算に基づき、各部門の年度計画を定め、理事長、学校長の承認を受けて、予算を管理・執行している。
	32	財務について会計監査が適正におこなわれているか	顧問税理士の指導をうけながら適正な会計処理を行っている。 2021年度も5月に、監事2名による会計監査を行った。
	33	財務情報公開の体制整備はできているか	財務情報は学園ホームページにて公開している。 関係者より財務諸表等の閲覧請求があった場合は、閲覧規定に則った対応ができる体制を整えている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、適正に管理・運営されていると評価している。		

項目 9	法令等の遵守		
【現状】	34	関係法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか、また個人情報保護に関して十分な対策が練られているか	給与規程、個人情報保護規程、文書保存規程など、各規程に則り、法令順守についての総合的な管理にあたっている。前述規程等は、常時閲覧できる場所に保管し、適宜確認・利用できる環境を整えている。 顧問弁護士と契約しており、随時相談可能な体制を整えている。 個人情報保護に関しては、個人情報保護規程を全教職員へ説明し、この規程に則って運用している。また、マイナンバーについても、特定個人情報取扱規程を策定し、適正に運用している。
	35	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価委員会を設置し、問題点の改善に努めている。
	36	学校関係者評価委員会を実施しその結果を公開しているか	毎年「自己点検・自己評価報告書」を元に、学校関係者評価委員会を開催し、その結果をHP上で公開している。
	37	教育情報の公開は適正に行われているか	前述の各報告書のほか「学校情報」を各年度ごとに更新し、HP上で公開している。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>例年通り、適正に実施されていると評価してる。</p> <p>学校教育法、私立学校法、学校保健法、税法等の法令を遵守して学校運営が適正に行われている。 自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価委員会議事録、学校情報は、毎年ホームページにて公開することとしている。</p>		

項目 10	社会貢献	
【現状】	38 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<p>コロナ禍ではあるが、卒業制作展と同時に「卒祭」(学園祭)を行い、外部を含め3日間で約500名の来場者があった。 ≪技術講習会・社員教育を実施した関連団体・企業様一覧≫ 日本時計輸入協会様／日新時計ホールディングス様</p>
	39 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	<p>ボランティア情報を収集し、ポスターを制作して学内に掲示し、社会貢献への取り組みを学生に奨励できた。</p>
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> コロナ禍においても、ウォッチコースでは企業向けの企業研修について積極的に行った。また、ジュエリーコースでは、SDGsの理解を通して、ものづくりの立場からの社会貢献の意義を教育する機会が増え、その理解が深められた事は、評価できる。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 今後は単発的なプロジェクトではなく、継続的に行っていく必要がある。また各学科に社会貢献につながるカリキュラムに盛り込むことを要請していく必要があると考える。</p>	

項目 11	国際交流	
【現状】	40	留学生の受入れ・在籍管理等において適切な管理体制が整備されているか 学務課内に「留学生センター」を設置し、入学相談室留学生担当と連携のもと、在学する全留学生の在留資格管理をはじめ、資格外活動(アルバイト)状況の把握などに努めている。 適切な管理は継続されており、2021年度も大阪出入国在留管理局より「適正校」の認定を受けている。
	41	グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みが行われているか 今年度もコロナ禍により、外国人アーティスト等の招聘ができなかったが、オンラインを駆使してセミナーや工房訪問、ワークショップを開催し、国際的な視野・感性を養うことができた。 2021年度の実績は以下の通り。 [イタリア]ヴィブラム社 シューズブランド、工房紹介 [オランダ]エリック・マタイサン氏 ワークショップ [スイス]ソフィー・ハナガース氏 ワークショップ [オランダ]ルース・ファン・ピーク氏 ワークショップ [スイス]フィリップ・デュフォー氏 アトリエ見学 [イギリス]マーク・サンダース氏(プロダクトデザイナー) 毎年恒例となっている海外大学の交換留学については2021年度も中止とした。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 今年も昨年同様に海外の教育者、デザイナー、企業クリエイターをオンラインで招聘し、セミナーやワークショップを多数行ったことは評価できる。 また、コロナ禍で来日できず本国に留まる入学希望者たちとの交流やサポートを定期的に行った。結果として入学辞退する学生を出すことなく迎え入れることができた。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 海外からの来日規制が緩和されれば、海外講師を招聘することも可能になってくる。また、交換留学生に対しても広く受け入れ、送り出すことも可能になると見込んでいる。 今後は国際交流機関と綿密に連絡を取っていく必要があると考える。</p>	